

和の音探訪記

三の巻

◆浄瑠璃の起源と流派◆

「浄瑠璃」という言葉の由来

「浄瑠璃」という名称は、源義経と浄瑠璃姫の切ない恋という史実に基づいて室町時代に誕生した『浄瑠璃御前物語』に由来すると言われています。

その物語の主人公「浄瑠璃姫」の恋物語が、初めは琵琶法師の節付けによって語られ、やがて三味線を伴っての語りへと変化して行き大変な人気を博しました。

そんな浄瑠璃御前物語を聴いた人々が「浄瑠璃御前物語を」とリクエストし「浄瑠璃姫を」と簡略化され「浄瑠璃を」と段々短く通称で呼ばれるようになったそうです。

そしていつしか、様々な出来事を物語として語る叙事詩的な音曲を総じて「浄瑠璃」と呼ぶようになり、この物語世界は後の「人形浄瑠璃」へと繋がって行っただけです。

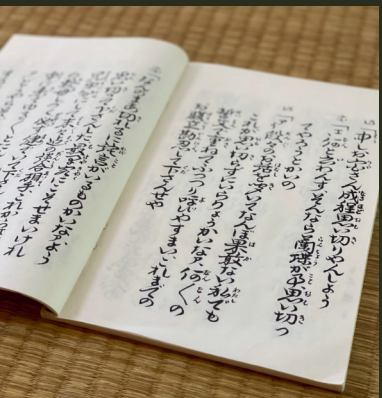
色々な「浄瑠璃」

「浄瑠璃」には、色々な流派が存在します。

江戸時代初期以降に、個々の太夫の語り口が「く節」と呼ばれるようになり、やがて流派として確率して行きました。現代に伝わる代表的な流派は8つあり

義太夫節 河東節 一中節 常磐津節

富本節 清元節 新内節 宮園節



とジャンル分けされています。同じ「浄瑠璃」と呼ばれるものでもそれぞれに特徴が異なり、音色も全く違うのが面白い所ですね。

浄瑠璃が愛されたのはなぜ？

琵琶法師はそれまで「平家語り」として平家の滅亡と諸行無常を語っていましたが、浄瑠璃御前物語の登場によってラブロマンスを語ったら大流行。

その後、各流派から実際の事件をモチーフにした物語や時事ネタを創作として上手く取り入れた作品など無数の音曲が誕生し、名作は現在まで語り継がれています。

これは現代の映画やドラマ、巷を騒がせるゴシップ等の傾向を見ても同じ事が言えるのではないのでしょうか？

何百年経とうとも、人々の関心が向きやすいのは同じようなテーマだからこそ、浄瑠璃は愛されてきたと言えるでしょう。

